



会長 矢野正則さん

丹精込めて栽培した作物を無駄にしないように、完熟した野菜・果実をジュースに加工することで、農家をサポートしています。数多くの方に飲んでいただけたよう、味の改良をしたいと思います。

問 本庁舎農政課 内2225

白河ブランド プレミアム「白河ジュース」

認証第21号	「トマト」
認証第22号	「もも」
認証第23号	「りんご」
認証第24号	「人参」



農産物直売所アグリパーク出荷者友の会 白河が誇る優れた製品を紹介！

市内白坂で栽培された「トマト（桃太郎）」「人参」、久田野で栽培された「もも（あかつき）」「りんご（ふじ）」を、まる絞りした完熟果汁100%ジュースです。一番おいしい時期の完熟したものを味わってもらうため、素材の味を損なわないよう、余計なものは何も入れずシンプルに仕上げています。

「トマト」「もも」は、濃厚な味わいのため、そのまま飲むだけでなく、料理の隠し味に使うと、味に深みが増します。また、「人参」は、にんじんとりんごのミックスで、子どもでも飲みやすい、あっさりとした味です。

それぞれの素材の味を濃縮した濃密な味わいを、ぜひお試しください。

シリーズで学ぶ

白河歴史人物伝

Vol.2

白河に伝説をのこす名僧

源翁

（生年不詳～1396）



木造源翁和尚坐像
（常在院蔵、県指定文化財）

源翁和尚は、常在院（表郷中寺）を開いた曹洞宗の僧侶で、那須の殺生石伝説にまつわる人物としても知られます。

《生い立ちと経歴》

和尚は、現在の新潟県に生まれました。5歳の時、新潟の古刹国上寺（陸上寺）で出家します。全国を遍歴し、鳥取、栃木、茨城と、行く先々で寺院の創建に関わりました。その後福島に入り、白河に常在院を、喜多方に慶徳寺・示現寺を開きました。さらに山形、新潟、秋田、岡山などを歴遊し、開いた寺院は合計22箇寺にのぼります。

問 文化財課 ☎ 2310



殺生石

常在院の境内に現存する、殺生石のかげらと伝えられる石。

説に1374年）に開かれ、寺には和尚の行いを描いた絵巻と文書、木造の坐像が伝えられています。また、境内の裏手にのこされている巨石は、「殺生石」の一つとされています。

《殺生石の伝説》

平安時代、宮中に現れて帝を呪い殺そうとした妖狐は、那須野が原で退治されました。その怨念は毒を放つ殺生石と化し、生き物を苦しめていました。和尚が仏法を説いて供養し、石は打ち砕かれました。そのとき飛び散ったかけらの一つが常在院に飛来したと伝えられています。

なお、金づちのことを「玄能」と呼びますが、これは和尚が殺生石を砕く際に用いたことが語源とされます。